東大和市の“今”を伝えたい・・・
市議会議員

2017年8月27日

和地ひとみレポート No.249

日本一子育てしやすいまちを目指す東大和市は・・・量だけではなく

質を向上させる工夫が必要

■夏休みの子どもの居場所を視察

…以前のレポートでもお伝えしたように市議会の厚生文教委員会では「日本一子育てしやすいまちづくりについて」を調査研究しています。これは、尾崎市長の大きな公約である「日本一子育てしやすいまちづくり」を目指す東大和市の実態を調査するとともに、先進市事例なども研究し、最終的にはその調査結果を市への提言としてまとめるものです。

…この調査の一環として８月２１日と２３日には、長期休暇中（≒夏休み中）の子どもの居場所についての現地視察を実施。子ども生活部が所管する学童保育所３か所とランドセル来館３か所。そして社会教育部が公民館活動として取り組んでいる「夏休み・みんなでつくる游空間」のエンディングイベントの『こどもマルシェ』を訪れました。市内全ての「子どもの居場所」を訪れたわけではありませんが、やはり「百聞は一見に如かず」。良い点とともに様々な課題も見えました。

■“縦割り”の難しさ

…まず、子どもの居場所として代表的な「学童保育」と学童保育に入れなかった子ども達が対象の「ランドセル来館」ですが、環境は互いに違えども、双方とも職員の方たちの工夫や頑張りが伺えました。しかし、職員の力ではどうにもならない“縦割り”や“財政的”な壁があることも事実です。例えば、小学校に隣接している学童保育所の場合、目の前に広い校庭があっても基本的には使用できません。もちろん部活動などがある際は校庭の使用は難しいかもしれませんが、学童保育所で使用できない基本的な理由は、学童保育所と学校を所管する部が違うということです。また、学校内にランドセル来館として使用している教室がある小学校もありますが、例えば子どもが怪我をしたり体調をくずしたりした場合も保健室の使用や養護教諭の手助けをお願いすることも所管が違うためできません。

…これは文科省（学校）と厚労省（学童保育・ランドセル来館）と国の制度上、所管が分かれていることに起因するもの。現在はこのような制度だと言われればそれまでですが、これは行政の仕組み（≒大人の事情）で、子ども達には関係のないことです。

…公民館事業の“夏休み・みんなでつくる游空間”は、今年で 14 回となります。游空間は『夏休み中の小学生・中学生・高校生が中央公民館で自習・読書・おしゃべりをするとともに、公民館を利用している大人の団体が子どもの楽しめる教室を開催する』というもの。最終日の「こどもマルシェ」はその集大成ともいえる子どもが主役のイベントです。自分たちが体験したことを色々な人に伝えるために、子ども達が主体となって開催します。（子ども達で準備をし、子ども達が指導者として来場者に対応。）

…当日の会場は、小さなお子さんを連れた親子や小学生などが来場。薄暗く感じることが多い中央公民館のホールが明るく感じるほど活気のあるイベントとなっていました。子どもたちは自信を持って来場者を出迎え、参加した教室で習ったこと（ゲームやモノづくり等）を指導するなど、その様子はとても頼もしく感じました。このような取り組みは子ども達の体験の幅を広げるとともに自信にも繋がり、また、世代を超えた交流も出来る良いものだと実感。東大和市の取組みとして誇れるものだと思いました。

…しかし、学童やランドセル来館に通っている子どもは游空間や子どもマルシェへの参加は難しい状況です。学校教育や社会教育（公民館活動）と厚労省が所管する学童（ランドセル来館含む）という縦割りという考え方ではなく、子ども達にとって良いことは何かという考え方で所管をまたいで大きく見渡せば、東大和市に今ある資源をもっと良い形で活用することは可能。東大和市の目指す「日本一子育てしやすいまちづくり」の実現に向けて取り組むべきことではないかと思いました。

■各自治体で創る子育て環境

…さて、子育て支援施策というと、まず思い浮かぶのが「待機児童問題」のこと。今回、視察したランドセル来館も学童保育の定員以上のニーズに対応するための事業で、保育園だけでなく学童保育所でも待機児童の問題は多くの自治体で課題となっています。

…このような子育て世代のニーズに対し、国においては平成 27 年度から『子ども・子育て支援新制度』をスタート。この新制度目的は

① 『認定こども園制度』を改善し、認定こども園を普及させていくこと。
② 保育を量的に拡大し、待機児童を解消するとともに、幼児教育や保育の質をもっと高めていくこと。
③ 地域の子育て支援をさらに充実させること。

とされており、わが国で初めて「子ども・子育て」が会保障制度に位置づけられと言われているものです。

…この制度は『各自治体が自分たちの子育て環境を創ってくださいね』と国が言っているとも言い換えることができる内容となっているため、全国の各自治体の取組みにより、その差が大きくなっているのが実情です。そのような中、今後、必要とされる子ども・子育て支援や他自治体の取組みなどを知りたく、先日、都内で開催された『都市自治体の子ども・子育て政策』というセミナーに私は参加してきました。

（裏面に続く）

■今後必要とされる子育て支援の取組み

…このセミナーでは先進自治体の取組みの発表などが行われたほかに、玉川大学教育学部教授で日本保育学会副会長の大豆生田氏の講演がありました。大豆生田氏の講演では日本が先進国の中で幼児の教育・保育にかける予算が最低クラスであることや、様々な調査からの日本の子育て支援の課題について挙げられました。その後、その課題に対し、地域に合った形で取り組んでいる自治体の取組みや自治体間格差についても紹介されました。
…例えば、ご自身が『地方版：子ども子育て会議』の会長をされている墨田区では『子ども・子育て支援新制度』の説明会を区民向けに開催。この開催にあたっては行政と区民と専門家が協働で実施し、会場を埋め尽くした子育て世代の区民の方が、親目線で「どのような子育て環境を実現したいか」ということを共有する場となったとのこと。そのほかにも都心部の自治体だけでなく、地方の自治体での様々な取り組みも紹介され、先駆的な取り組みの特徴について以下の点を挙げられました。

【先駆的取り組みにみる特徴】
◇子ども･子育て政策に関するしっかりとしたミッションの共有
◇地方版：子ども･子育て会議での活発な議論
◇役所と専門家、市民の協働
◇市民性の重視。当事者性（親世代）および高齢者世代の積極的な活用（地域における支え合いの子育て政策）
◇教育局と福祉局の統合や連携体制。現場も一体的に実践的な交流の実施。教育･保育の質的な向上への積極的な取り組み

…また、講演の中では「役所の中核の人が本気で取り組むと、こんなに大きなことができるのか」と驚くことが多いことや、国の制度変更を待たず、自治体が主体的に縦割り解消で動いているところも多いという話もありました。

■重要な市長のリーダーシップ

…現在、東大和市の待機児童問題は市の取組みの効果で改善しています。よって「日本一子育てしやすいまちづくり」を目指す東大和市では、“量”の向上だけではなく“質”の向上についても真剣に取り組む段階に入っていると思います。そのためには、求められている子ども・子育て支援について、市民や専門家の意見を聞き、目標を共有することが必要。そして、何より実現に向けては“行政の縦割り”を解消することが必要ですが、それを実現するには行政の長である市長のリーダーシップと情熱がポイントとなります。
…前述のセミナーの主な参加者は議員、行政職員でしたが、他市の市長の姿もありました。市長の役割は実務ではなく大きな方向性を示すこと。そのために、自身の大きな公約に関わるこのようなセミナーで情報を得ることや人脈を作ることも市長には必要だと思います。残念ながら子育て・子ども施策について尾崎市長が熱く語る姿はあまり目にしないのが現状です。
…子育て・子ども支援施策は子どもや子育て世代のためだけでなく、将来の東大和市、そして日本にとって重要な施策です。市民と認識を共有するためにも市長には様々なところでの発信をしていただきたいです。

ブランド・メッセージのロゴデザイン
投票期間は９月１日から９月１８日

ロゴ決定後の活用方法がカギ

…７月２日付のレポート№243 でも取り上げたように、東大和市では“ブランド・プロモーション”を進めています。先日決定したブランド・メッセージは
『東京　ゆったり日和　東大和』で、
この度、そのロゴデザインの候補３点が決定されました。
今後は市民等の投票により、最終的に使用されるロゴが決定します。
…シティ・プロモーション（東大和市ではブランド・プロモーションと呼ぶ）は全国の自治体で取り組まれていることですが、その取り組み方や効果には差が出ています。東大和市ではその取り組みのための“ツール”は揃ってきたというところですので、「なぜプロモーションをするのか」その目的を達成させるために、効果的な取り組みを行うとともに、その効果の検証も行ってほしいと思います。まずは、決定したメッセージとロゴに対し、市民が親しみを感じ、誇りを持ってもらえるような取り組みが第一歩だと思います。
（詳しい投票方法やデザインなどは市報９月１日号などでご確認ください）

【投票方法】※東大和市に住んでいる方、応援してくださる方など、誰でも投票可能です。
① 市内の公共施設等に設置する投票箱に投票　②市ホームページから投票　③FAX で投票（042-563-5932）
④ 郵送で投票（官製はがき等に「ブランド・メッセージ市民投票」と明記し　市役所企画財政部企画課に郵送）

市政、議会について「自然体」「ざっくばらん」にレポート。駅前で配布するレポートは毎回、最新号です。

「私たちの身近にある市政、市議会。伝えることがスタートだと思います。」

【プロフィール】
1970 年　東京都北区生まれ。／父の転勤で１歳から群馬県で育つ。幼稚園からカギっ子。リーダーシップを発揮し、小学校で児童会長、中学校でも生徒会長を務める。大好きな音楽を究めようと武蔵野音楽大学に進学、卒業。／卒業後は群馬の山あいの小学校で臨時教諭として担任を２年勤め、新しい試みで授業を活性化させ「元気印の先生」として保護者・生徒から親しまれた。／「学校」の外の一般社会で挑戦しようとベンチャー企業の㈱シートゥーネットワーク（※スーパーマーケットを経営。店頭公開から一部上場、外資系企業に転換）に社長秘書として入社。のち店舗現場に異動、同社で初の女性店長となる。月刊誌『日経 WOMAN』のベンチャー企業で活躍する女性特集で取り上げられる。その後、人材開発部長を拝命。／『人を活かす』経営を学ぶため一念発起しカナダに留学。外から見た日本の将来に、漠然とした不安感じる。帰国後は、不動産投資会社にて企画業務、税理士対応、広報、社員研修、組織活性化などに従事。２０１１年４月、初当選。現在２期目。顔の見える議員として、日々奮闘中。

東大和市　市議会議員
和地　ひとみ

■ **連絡先**　和地 ひとみ事務所　HP：http://www.wachi1103.jp
✉ wachi_hitomi@cocoa.ocn.ne.jp　【電話・ＦＡＸ】 042－516－8546
〒207-0005 東大和市高木３－274－２－102